

グローバルマインドを培う教育実践と検証方法の改善 －「SMARTプログラム」の取り組みを通して－

龍岡 寛幸 ・ 坂本 善彦

1. はじめに

広島大学附属東雲中学校（以下、本校と略記）では、2001（平成13）年度よりグローバル人材を育成する資質・能力の原動である「グローバルマインド」を培う教育活動を模索し、実践している。本校が捉えるグローバルマインドとは、「自分とは異なる考え方や価値観をもつ世界中の人たちに対して、相手の気持ちを理解し、その上で自分自身のことを伝えたいと思える気持ちや伝えようとする意欲、態度」のことである。これは、広島大学附属学校園研究推進委員会が提唱する問題解決能力やコミュニケーション力、ICT活用能力、主体性や協働性、異文化理解などのグローバル人材に求められる資質・能力に通じる。グローバルマインドを培う教育活動を具現化するため、実際には「国際人になろう！」をキーワードとして、国際交流活動、SMARTプログラム、教科等の授業の3つの教育活動を展開している。これらのことは、グローバルマインドを培う本校の教育実践として、図1のように表すことができる。

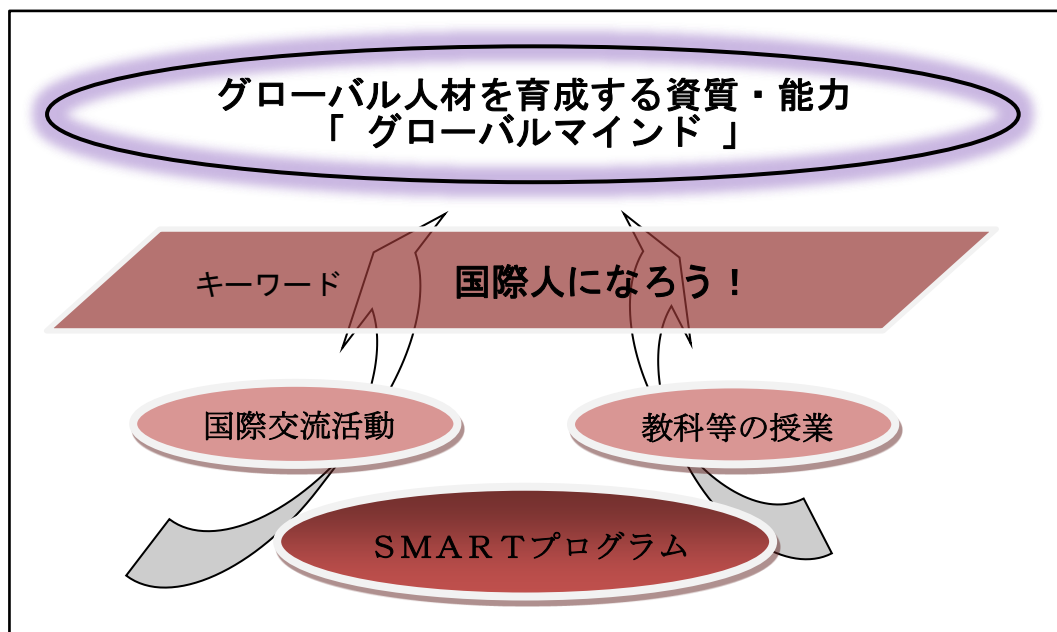


図1 グローバルマインドを培う本校の教育実践

ここでは、本校が実践してきた国際交流活動、SMARTプログラム、教科等の授業の3つの教育活動のうち、総合的な学習の時間を利用し展開してきた「SMARTプログラム」の実践及び検証方法について報告する。このSMARTプログラムの取り組みは、本校の多くの教育活動と密接に関係しあって、SMARTプログラムの成果として現れている。また、第1学年から第3学年の通常学級及び特別支援学級といった全校で進めるプログラムであり、修学旅行や学習発表会、参観日や校外学習など、多くの教育活動を取り込んだ活動となっている。なお、コロナ禍によって昨年度から修学旅行での研究活動は行えていない。

Tomoyuki TATSUOKA, Yoshihiko SAKAMOTO

Improving educational practices and verification methods to cultivate a global mindset
Through the efforts of the "SMART Program"

2. 東雲中学校が実践しているSMARTプログラム

SMARTプログラムは、グローバルマインドを培うことを目指して、2012（平成24）年度より実践してきた教育プログラムである。本節では、プログラムの概要及びその成果・課題について述べる。

（1）SMARTプログラムの概要

SMARTは、「東雲中学校（Shinonome）の生徒は、自らの使命（Mission）を自覚し、問題発見したことを現地で探究（Research）し、その過程において見通しをもった行動（Action）をとる旅（Tour）」のことである。SMARTプログラムの概要は、次の表1である。

表1 SMARTプログラムの概要

時 期	内 容
第1学年 前 半	自分の興味・適性について、研究テーマについて Pre Task Trip（広島市近郊）
第1学年 後 半	Pre Research Tour に向けた 研究テーマ・内容・方法の作成及び行程の計画
第2学年 前 半	Pre Research Tour（呉市近郊，尾道市近郊ほか） 研究のまとめ・提案及び交流
第2学年 後 半	SMARTに向けた 研究テーマ・内容・方法の作成及び予備調査
第3学年 前 半	SMARTに向けた 研究の再考及び行程の計画
SMART （6月）	Task Trip・・・京都近郊で行うミッションが朝発表され、 それに向け京都に向かいながら行程を計画し、協働して遂行する。 Research Tour・・・紀伊半島を中心として各人の研究テーマを 遂行できるように、協働して現地調査を行い、探究活動を展開する。
第3学年 後 半	研究のまとめ 研究の報告・交流 ～成果発表会（全校）～



また、このプログラムを順に並べると、SMARTプログラム系統図として、図2のように表すことができる。



図2 SMARTプログラム系統図

SMARTにおいて3年生が実践している主たる内容は、「Task Trip」と「Research Tour」である。「Task Trip」は、4人グループそれぞれに京都近郊で行う複数のTaskが課され、その解決を目指して京都に向かいながら新幹線での移動中に行程を計画し、協働して遂行するTripである。Taskの内容は、例えば、「嵐山を訪問している外国人の方に日本の印象をインタビューしなさい！」である。「Research Tour」は、紀伊半島（2019（平成31）年度は、鳥羽、白浜および岐阜）を中心に探究活動の拠点として、各人が設定したテーマを遂行できるように、協働して現地調査を行い、探究活動を展開するTourである。これまでの実践例として、Kさんは観光



龍岡寛幸・坂本善彦(2022),「グローバルマインドを培う教育実践と検証方法の改善 ―「SMARTプログラム」の取り組みを通して―」, 広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育第51集」, 82-88.

地とゆるキャラの関係について関心を示したことを研究動機として、「ゆるキャラは、城にどのような影響を与えているのだろうか」を研究テーマに設定した。現地での取材や体験活動をもとに仲間と協働して、得られた知見をもとに、広島城をアピールできるようなゆるキャラの提案という一連の研究活動を行った。

(2) SMARTプログラムによる実践の成果と課題

これまでの第3学年の生徒に対する事後アンケート調査の結果によると、「仲間と協力して的確に状況判断し、積極的に問題解決をすることができた」や「研究の成果をきちんと分析・整理し、発表方法を工夫してわかりやすく報告することができた」の項目について、8割以上の生徒が肯定的に回答している。このことは、広島大学附属学校園研究推進委員会の中学校・高等学校部会（以下、部会）が提唱する問題解決能力やコミュニケーション力の向上を示唆している。これらの資質・能力の向上は、本校の教育全般による成果であるが、SMARTプログラムの実践はその一助になっていると判断できる。また、2018（平成30）年度には、部会が提唱するグローバル人材に求められる資質・能力のルーブリックに照らして、第2学年での生徒の動向を調査した。その結果、「課題を作る」ことについて、さらなる支援が必要であることが明らかになった。そこで、2019（平成31）年度には、「課題を作る」ことに対する指導改善と検証方法について再考した。さらに、2020（令和2）年度は、第2学年の調査に加えて、第1学年に対しても部会が提唱するグローバル人材に求められる資質・能力のルーブリックに照らして、生徒に対するアンケートを作成・実施し、SMARTプログラムの系統的な指導法の検証を行った。

3. Pre Research Tour の課題設定に向けた指導の改善

これまでのPre Research Tourでは、広島県内の調査場所を発表してから各生徒に課題設定をさせていた。この場合、各生徒の興味・関心よりも、調査場所のできる内容を優先した課題設定が多くみられた。また、各生徒の興味・関心を再認識させるような時間が確保できていなかったことから、課題設定に向けての指導についても問題があったと考えられる。このため、本当に深めたい課題設定をすることに対して難しさを感じる生徒が多かったと思われる。そこで、Pre Research Tourに関する指導の在り方を再検討し、実施したものを報告する。

まず、各生徒の興味・関心がどこにあるのか、文化・自然・経済・食などの大きなテーマで再認識させる時間を確保した。これをもとに、「郷土」グループと「環境」グループを設定し、調査場所を発表した。このことで、解決したい課題の大きな柱を意識させながら、調査場所のできる具体的な課題を設定させた。

4. 改善した指導の検証

本節ではまず、部会で作成したルーブリックをもとに2018（平成30）年度に作成したアンケートの改善について述べる。次に、2019（平成31）年度に実施したアンケート調査をもとに、検討した今後のSMARTプログラムの指導法について述べる。

(1) ルーブリックをもとにした評価材の改良

SMARTプログラムの実践は、主として問題解決能力、コミュニケーション力の2つの能力向上を指向した教育活動である。2019（平成31）年度は、部会で作成したルーブリック（表2）を参考に、2018（平成30）年度作成した5件法の回答及び自由記述を併用したアンケートのうち、「課題を作る」項目について、改善した指導法を評価できるように改良した。なお、本実践は第2学年終了段階における生徒の実態を明確にすることが課題であるため、中学校第1・2学年のルーブリックを示す。また、図3に、改良したアンケートを示す。「課題を作る」ことに対応する質問を、【課題設定は難しかったですか】以外に、【自分の興味・関心に従って課題設定ができましたか】と【課題を設定するときのためにやったことはなんですか】の2項目を増やし、改善した指導の有用性を評価できるアンケートとした。また、第3学年でのSMARTにおけるResearch Tourの課題設定についての質問を増やすことで、SMARTプログラムの継続性を確認できるようにした。



表2 グローバル人材育成のルーブリック(中学校第1・2学年)

問題解決能力	
S (期待以上である)	身近な事象に関連する課題に対して, 探求の方法を適切に用いて多面的に考察し, 解決策を考え, 説明することができる。
A (十分満足できる)	身近な事象に関連する課題に対して, 探求の方法を適切に用いて多面的に考察し, 解決策を考え, まとめることができる。
B (おおむね満足できる)	身近な事象に関連する課題に対して, 探求の方法を用いて考察し, 自分の意見を加えてまとめることができる。
C (さらなる努力を要する)	身近な事象に関連した課題に対して, 探求の方法を用いて考察し, まとめることができる。

コミュニケーション力	
S (期待以上である)	集団の中で, 意見の異なる他者との間で, 自分の意見を述べたり他者の意見を聞いたりして建設的な議論をすることができる。
A (十分満足できる)	集団の中で, 他者に配慮して自分の意見を述べたり他者の意見を聞いたりして議論を深めることができる。
B (おおむね満足できる)	集団の中で, 自分の意見を述べたり他者の意見を聞いたりして話し合いをすることができる。
C (さらなる努力を要する)	集団の中で, 自分の意見を述べるか他者の意見を聞くかのいずれか一方で留まっている。

Pre Research Tour を終えて (アンケート)

2年()組()番 名前()

このアンケートは, 現時点でのみなさんの考えをお聞きして, 今後の Pre Research の取り組みの改善などに役立てることを, 主な目的としています。
したがって, 個人情報の取り扱いには十分配慮していきますので, 率直に回答してください。

◎「課題を作るー調査するー結果から振り返る」の取り組みについての質問です。

【質問①】「課題を作る」ことについて

○ 自分の興味・関心や自分の意見を発信したいことを意識して課題が設定できましたか?

もっともあてはまるものに ○をしてください	できなかった	あまりできなかった	どちらともいえない	まあまあできた	できた
できたことや もっとこうすれば良かったこと があれば教えてください					

○ 課題設定は難しかったですか?

もっともあてはまるものに ○をしてください	とても難しかった	難しかった	どちらともいえない	簡単だった	とても簡単だった
できたことや もっとこうすれば良かったこと があれば教えてください					

○ 課題を設定するときにためになったことはなんですか?

- 自分の興味・関心 はい ・ どちらともいえない ・ いいえ
- 友だちや先生の助言 はい ・ どちらともいえない ・ いいえ
- 調査場所 はい ・ どちらともいえない ・ いいえ
- その他

【質問②】事前の「調査」について

もっともあてはまるものに ○をしてください	あまりできていない	少なくていい	どちらともいえない	少なくて	よくできて
できたことや もっとこうすれば良かったこと があれば教えてください					

【質問③】当日の「調査」について

もっともあてはまるものに ○をしてください	あまりできていない	少なくていい	どちらともいえない	少なくて	よくできて
できたことや もっとこうすれば良かったこと があれば教えてください					

【質問④】結果からのふり返りを通して, 課題に対して考察できましたかまたはできそうですか?

もっともあてはまるものに ○をしてください	あまりできていない	少なくていい	どちらともいえない	少なくて	よくできて
できたことや もっとこうすれば良かったこと があれば教えてください					

◎小集団(グループ)の取り組みについての質問です。

【質問⑤】小集団(自分のグループ)の中で仲間に配慮して, 自分の意見を述べたり仲間の意見を聞いたりして, 議論を深めることができましたか?

もっともあてはまるものに ○をしてください	あまりできていない	少なくていい	どちらともいえない	少なくて	よくできて
できたことや もっとこうすれば良かったこと があれば教えてください					

◎Research Tourの課題設定についての質問です。

【質問⑥】Pre Research Tour を終えて, 今回の課題をさらに深めたいですか?

もっともあてはまるものに ○をしてください	全く不要	あまり不要	どちらともいえない	少し要	とても要
理由					

【質問⑦】自分の興味・関心は変化しましたか?

もっともあてはまるものに ○をしてください	変化していない	あまり変化していない	どちらともいえない	少し変化した	とても変化した
理由や要因					

図3 2019年度に実施したアンケート

(2) 改善した指導法の検証

改良した評価材としてのアンケートの妥当性や東雲中学校の教育実践を向上させる視点を得るために、**図3**のアンケートを実施した。アンケートは、調査活動実施の翌登校日に一連の取り組みを振り返る際に実施した。

- 目的 (1) ルーブリックの活用につながる評価材として適しているか判断すること
 (2) 生徒の実態を把握する評価材として適しているか判断すること
 (3) 今後の指導法を検証可能にする評価材として適しているか判断すること

実施時期 2019(令和元)年6月17日(月)

対象 東雲中学校第2学年 80名(男子40名, 女子40名)

実施段階 第2学年前半で実施予定のPre Research Tour(呉市近郊・宮島)

〔目的- (1) ルーブリックの活用につながる評価材として適しているか〕

2018(平成30)年度同様、生徒の活動を教師が見とり励ます評価に加えて、生徒自身が5段階で自己評価することで、ルーブリックの到達度を判断しやすいことが確認できた。また、自由記述の欄に生徒が書いてある文章の分析から、問い方に対して生徒が混乱して回答した質問がなかったことやルーブリックの段階が特定できる判断材料となる表現なども再確認できた。



〔目的- (2) 生徒の実態を把握する評価材として適しているか〕

それぞれの質問に対する5件法の回答を、1点~5点として集計した。そのときの平均値を5点満点で百分率表示した値を、通過率として**表3**に示す。

表3 アンケートの結果(通過率)

質問	質問①課題作り					質問②
	興味・関心	難しさ	ためになったこと			事前調査
通過率(%)	85.0	26.3	興味・関心 89.0	友だちや先生 55.0	調査場所 64.0	77.6
質問	質問③	質問④	質問⑤	質問⑥	質問⑦	
	当日調査	ふり返り	コミュニケーション	課題の継続	興味・関心の変化	
通過率(%)	89.9	87.4	84.9	83.5	74.7	

今回改善した指導によって、「課題作り」については、各生徒の興味・関心に合わせて課題を設定することが確認できた。一方で、具体的な課題設定の行いやすさについては、さらなる指導法の改善を要することが明らかとなった。また、質問⑥の【今回の課題をさらに深めたい】に対しては、8割以上の通過率から、SMARTプログラムとしての継続性をより意識できるように改善できていると思われる。質問⑦の【興味・関心は変化しましたか】については、今回の調査で視野が広がることで、興味・関心が深化したという自由記述が多かったことから、肯定的な変化であるととらえることができる。

〔目的- (3) 今後の指導法を検証可能にする評価材として適しているか〕

中学校卒業時に到達する問題解決能力やコミュニケーション力を、より質を高く向上させるために、今回の中学校第2学年の生徒実態の把握を参考に、各学年における到達目標の再設定と指導法および評価方法の検討へと広げていく必要がある。具体的には、「課題作り」では、第2学年後半から第3学年前半で実施するResearch Tourの課題作りの指導に重点をおく必要性が示唆される。また、第1学年から第2学年へのPre Research Tourにおける課題作りの指導を工夫する必要性も示唆される。



これらの結果から、引き続き第2学年の生徒にアンケートを実施し、ルーブリックをもとに自己評価させるとともに、第1学年の生徒にもルーブリックをもとにアンケートを作成・実施することで、グローバル人材育成に向けてさらに系統性を重視したSMARTプログラムを検証していく。

5. 課題設定に向けた第1学年の取り組み

これまでPre Task Tripでは, 研究調査のスキルを身に着けることを目的に, インタビュー調査を課題の中に取り入れていた。しかし, コロナ禍での実施は難しくなった。そこで, Pre Research TourからResearch Tourの2年間を通じて, 生徒が研究したい課題を設定させるための土台となる内容に変更して, 実施した。具体的には, 班ごとに「広島の魅力発見」分野と「実地探索での発見」分野の2つのジャンルから選択して, それぞれを表す写真を撮り, 報告ポスターを作成させた(図4)。一連の学習活動の前に, 「選ぶ」「深める」「ひきつける」「伝える」および「見通す」の5つのキーワードで, 報告ポスターをまとめる視点を伝えた。

タスクB: 次の分野のそれぞれから1つずつジャンルを選び, 写真を撮影しましょう。
(B-1の分野から1つ, B-2の分野から1つ, 合計2つのジャンルを選ぶ。)

B-1 「広島の魅力発見」分野

- ①言葉: 広島独特の言葉, 言い回し, 方言や広島らしさを表現している宣伝・看板・広告・ポスターなど
- ②食: 広島ならではの食べ物, 広島の食文化, 地元の野菜・果物, 名菓など
- ③歴史: 広島の様々な分野の歴史, 歴史的な建造物, 神社・仏閣, 歴史がわかる足跡・軌跡など
- ④スポーツ: 広島県民から愛されているスポーツ, スポーツチーム, 施設など

B-2 「実地探索での発見」分野

- ①自然: コースで見つけた植物, 動物, 山, 川などの自然など
- ②交通: コースで利用した交通網や実際に自分たちが歩いた道など
- ③会社: 広島県に根ざした企業や会社, スーパーや百貨店などの商業施設など
- ④学校: コースで見つけた様々な種類の学校(幼稚園・保育園から大学, 専門学校など)




図4 TaskBの内容および報告会

図5に, 2020年度に第1学年に実施したアンケートを示す。以前から実施している第2学年のアンケートと同様, 部会で作成したルーブリック(表2)を参考に, 5件法の回答及び自由記述を併用したアンケートを用いて評価した。

Pre Task Trip を終えて (アンケート)

1年()組()番 名前()

このアンケートは, 現時点でのみなさんの考えをお聞きして, 今後のPre Taskの取り組みの改善などに役立てることを, 主な目的としています。
したがって, 個人情報の取り扱いには十分配慮してまいりますので, 率直に回答してください。

◎小集団(グループ)の取り組みについての質問です。
【質問①】小集団(自分のグループ)の中で仲間と配慮して, 自分の意見を述べたり仲間の意見を聞いたりして, 議論を深めることができましたか?

もっともあてはまるものに ○をしてください できたことや もっとこうすれば良かったこと があれば教えてください	最も得意な ○をしてください	少し得意な ○をしてください	どちらともいえない ○をしてください	少し得意な ○をしてください	よくできた ○をしてください
---	-------------------	-------------------	-----------------------	-------------------	-------------------

◎「Task Bに向けての取り組み」の取り組みについての質問です。
【質問②】「選ぶ」「深める」ことについて
○ 発表するために「深める」ことを意識した写真を「選ぶ」ことができましたか?

もっともあてはまるものに ○をしてください できたことや もっとこうすれば良かったこと があれば教えてください	とても楽しかった	楽しかった	どちらともいえない	楽しなかった	とても楽しなかった
---	----------	-------	-----------	--------	-----------

【質問③】「ひきつける」「伝える」について
○ 他人をひきつけたり, 班で伝えたりすることを意識して活動できましたか?

もっともあてはまるものに ○をしてください できたことや もっとこうすれば良かったこと があれば教えてください	できた	最も得意な ○をしてください	どちらともいえない ○をしてください	最も得意な ○をしてください	できた
---	-----	-------------------	-----------------------	-------------------	-----

【質問④】「見通す」について
○ 今まで知らなかった「広島」や今後もっと調べたいと思う「広島」を発見することができましたか?

もっともあてはまるものに ○をしてください できたことや もっとこうすれば良かったこと があれば教えてください	最も得意な ○をしてください	少し得意な ○をしてください	どちらともいえない ○をしてください	少し得意な ○をしてください	よくできた ○をしてください
---	-------------------	-------------------	-----------------------	-------------------	-------------------

○ 自分の興味・関心や他の人に伝えたいと思うことを発見できましたか?

もっともあてはまるものに ○をしてください 理由や要因	最も得意な ○をしてください	少し得意な ○をしてください	どちらともいえない ○をしてください	少し得意な ○をしてください	よくできた ○をしてください
-----------------------------------	-------------------	-------------------	-----------------------	-------------------	-------------------

○ SMARTを通して, 発信したい研究の大きな方向性を見つけられましたか?

もっともあてはまるものに ○をしてください できたことや もっとこうすれば良かったこと があれば教えてください	最も得意な ○をしてください	少し得意な ○をしてください	どちらともいえない ○をしてください	少し得意な ○をしてください	よくできた ○をしてください
---	-------------------	-------------------	-----------------------	-------------------	-------------------

図5 2020年度に第1学年に実施したアンケート

龍岡寛幸・坂本善彦(2022),「グローバルマインドを培う教育実践と検証方法の改善－「SMARTプログラム」の取り組みを通して－」, 広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育第51集」, 82-88.

それぞれの質問に対する5件法の回答を, 1点~5点として集計した。そのときの平均値を5点満点で百分率表示した値を, 通過率として表4に示す。

表4 アンケートの結果(通過率)

質 問	質問① コミュニケーション	質問② 「深める」「選ぶ」	質問③ 「ひきつける」「伝える」
通過率 (%)	92.7	60.2	74.9
質 問	質問④「見通す」		
	「広島」再発見	研究テーマ	研究の方向性
通過率 (%)	84.9	76.8	64.4

今回実施した取り組みによって, 「コミュニケーション」については, 第1学年の段階で高水準に達成していることがわかった。また, 「深める」「選ぶ」「ひきつける」「伝える」および「見通す」の5つのキーワードを提示して指導したことで, 今後の研究について自分の研究テーマを決めて発信していく一連の研究を見通すことができたと思われる。今後は, 第1学年から第2学年への効果的な指導法を考案して, 系統的にグローバル人材を育成するSMARTプログラムへと発展させていきたい。

6. おわりに

本校のSMARTプログラムは, グローバル人材に求められる資質・能力の原動であるグローバルマインドを培うことをめざした教育実践である。この実践は, グローバル人材育成推進会議(2012)で示されたグローバル人材の要素と密接に関連していることに意義を見いだせる。また, 全校で組織的・計画的に探究するプログラムであることも大きな価値である。

本稿ではまず, 部会で作成したループブックをもとに2018(平成30)年度に開発した中学校第2学年を対象とした評価材を改良した。次に, 改良した評価材を用いた調査を通してSMARTプログラムの指導法を改善するための視点が得られることも確認できた。また, 第1学年の学習内容を修正し, 第2学年で実施した評価材を参考に, 第1学年での評価材を作成して, 生徒の到達度をはかるとともに修正した学習内容について評価した。今後は, 各学年における到達目標の再設定と指導法および評価方法の検討に向けて, SMARTプログラムのさらなる内容の充実を目指していきたい。

【 引用・参考文献 】

天野秀樹・龍岡寛幸・鈴木悦子・藤井朋子・西勉, 「アクティブ・ラーニングによりグローバルマインドを培う広島大学附属東雲中学校の取り組み実績－総合的な学習の時間における「SMARTプログラム」を通して－」, 広島大学附属東雲中学校研究紀要, 中学教育第48集, 75-80, 2017.

広島大学附属学校園研究推進委員会: 社会のグローバル化に対応した初等中等カリキュラムの開発VI, 2019.

グローバル人材育成推進会議: グローバル人材育成戦略(グローバル人材育成推進会議 審議まとめ), 2012.